

うえだ 環境市民会議 News

第37号

ニュース

うえだ環境市民会議の活動には、誰でも、どのプロジェクトチームにも参加できます。参加ご希望の方は、生活環境課までご連絡ください。豊かな環境を未来に残すために、一緒に活動しましょう。

この情報誌は自治センター、公民館、図書館、情報ライブラリー、市生活環境課の窓口で配布しております。

発行:うえだ環境市民会議

〒386-8601 上田市大手一丁目11-16
上田市生活環境課内

電話:0268-23-5120

FAX:0268-22-4127

E-mail seikan@city.ueda.nagano.jp

『原発、ほんまかいな?』 上映会のお知らせ

2011年3月11日からもうすぐ1年になるうとしています。福島第一原発の取り返しのつかない事故は私たちの生活、とくにエネルギーと食べ物に影響を及ぼしています。大気・大地・河川・海洋が放射能で汚染されてしまうと、そこでは私たちは生きていけないということは理解できるのですが、電気のことを考えるとまだ原発は必要だという意見もあります。

『原発、ほんまかいな?』を観て、一から原発のことを学び、参加者で感想や意見交換をしたいと思います。

みなさまお誘いのうえご参加ください。

日時:平成24年**3月8日**(木)

13:30 ~ 15:30

会場:上田中央公民館
(2F 第一会議室)

参加:無料



◆ お問い合わせ ◆

うえだ環境市民会議事務局 / 上田市役所生活環境課 電話 23-5120

その心意気に感動

うえだ環境市民会議 一之瀬礼子

昨年10月28日にうえだ環境市民会議・ごみ減プロジェクトチームが計画した自然エネルギー活用施設見学会に参加しました。3ヶ所、上田下水浄化センター、アリオ、ぶどう畑での風力発電の視察です。紙面の都合上、アリオと風力発電だけを紹介します。

アリオ。この企業の取り組みは目を見張るものがありました。まずは太陽光発電。屋上は勿論、壁面にソーラーパネルを配し、より長時間、日光を捉える工夫をし、さらに道路に沿って風力とソーラーパネルで発電し、私たちに可視化で示している。ソーラーパネルは合計560枚に及ぶとのこと。その他地下水を循環させて冷暖房に使っている。話を聞きながら歩けば自分はゆるやかな流れの中に存在し、2階を見上げれば人々は橋を渡っている様に見える。つまりこの建物内部は千曲川をイメージして造られており、外観は上田紬の反物を連想させてくれるのだ。とかく効率のみを優先しがちな昨今、自然エネルギーのみならず、気持ちも自然の中にいるようでした。3ヶ所を通じて思う事は、そこに携わる人のたゆまざる研究と熱意があってこそ成し遂げられたという事。これこそが命を守る事につながると感じ入った一日でした。

風力発電の竹花さんは楽しみながら生きがいとされているので充実していると思うが、個人ではお金もかかり大変のことと感じた。何とか力を合わせてやれる方法がないものか・・・。

地域からはじめる自然エネルギーシフト

うえだ環境市民会議 布施教子

昨年11月18日、東京都は環境政策が進んでいるということからぜひ、お話を伺いたいと谷口信雄氏をお呼びしました。先生は事前に上田市の様子を調べ講演されました。始めにタイの水害、アフリカの干ばつ、ロシアの大火事、日本での台風による豪雨災害等世界規模の異常気象が続いていること。気候変動は深刻で取り返しが付かない問題であること。そして、何とかしてCO₂を減らさなければならない。先進国は開発途上国との公平性と責任からも約80～90%削減が必要だ。既に目標値をクリアしている国もあると述べられました。上田市は既に28%も増えているが「どうしたらいいでしょうか?」。

よく「出来ることから始めよう」と言うがこの言葉は落とし穴でもある。何が出来るか→できない壁にぶつかる→出来ることはやる→何時までも達成できないことになってしまう。

ここに発想の壁がある。出来る出来ないではなく、やらなくてはならない事と気概をもつべきである。上田市においては今のままでは再生可能エネルギーの地産地消はできない。分散型エネルギーで自然エネルギーを得ること、中、小水力発電を中心に風力や太陽光発電を組み合わせた方式が向いている。市民、行政、事業者それぞれが得する方式をとれば成功するだろう。

水戸黄門の決め台詞のように「上田の現実が目に入らぬか」と印籠を突きつけられた思いがいたしました。